

設定した言語活動を通して育てたい力

ボタンの付け方の特徴を理解し、ボタンを付ける物に応じたボタン付けができる。

思考力、判断力の育成

学年 第5学年

題材名 衣服の着用と手入れ

- 本時の目標
- ・ 衣服を気持ちよく着るために手入れが必要であることが分かる。
 - ・ ボタンの付け方について理解し、ボタンを付けることができる。

学習の流れ（6時間目/全6時間）

学習活動	指導上の留意事項（ ） （ 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 前時までの学習を振り返る。 洗濯について学習したことを思い出す。	衣服を大切に扱い、気持ちよく着るために、日常の手入れが必要であることを確認する。	
2 本時の目標を確認する。	衣服を気持ちよく着るために、ボタン付けをマスターしよう！	
3 ボタンの役目について知る。 グループ内で、ボタンが付いている理由について交流する。	児童が持参したボタンが付いている物について紹介させ、ボタンは何のために付いているのかを考えさせ、数グループに発表させる。 ・ 服の前を止めるたり、ポケットなどからものが出ないようにしたりするためにある。 ・ 飾りやおしゃれのためにある。 など	
4 ボタンには、どんな種類があるか知る。	児童の持参したものや見本を準備しボタンの種類について知らせる。 2つ穴ボタン、4つ穴ボタン、足付きボタン など	
5 2つ穴ボタンを布に付けてみる。	各自にボタンを付けるときに気を付ける点を設定させ、ボタン付けが終わった後、数名に気を付けた点とその理由を発表させる。	
6 ボタン付けについて調べ、より良いボタンの付け方を探る。	ボタンの付け方が良くない衣服（付け方がゆるい、ボタンの足がない）と、付け方が良い衣服（布の厚さに応じた足が付いてしっかりと縫いつけられている）を準備し、それぞれを比較させ視点に基づいて、気づきを話し合わせ、発表させる。 〔話し合いの視点〕 ・ 着用時の着心地について気づきを出し合う。 ・ 見た目について感じたことを話し合う。 ・ 付け方の特徴を発見させ、なぜそのような付け方をしているのか理由を考えさせる。	<p>本時のねらいを達成する気づきを児童から引き出せるように、良い例と悪い例を比較させるなど教材の提示の仕方を工夫しましょう。</p> <p>比較による気づきから、ボタン付けの必要性やボタンの付け方が分かり、実感を伴う理解ができます。</p>
<p>ボタン付けの特徴について、理由を考えさせましょう。</p> <p>理由を考えさせることで、ボタンを付けるための方法だけでなく、付け方の特徴が理解でき、<u>布の厚さや目的に応じたボタン付けができる技能へとつなげることができます。</u></p>	発表をもとにまとめ、手入れの必要性や衣服の厚さによってボタンの足の長さが違うことや、足付きボタン、飾りボタンの取り扱いについて押さえる。	
7 ボタンの正しい付け方を確認し、再び2つ穴ボタンを布に付けてみる。	付け方を理解していない児童については、教師による師範、ビデオと付けかた見本を準備し、正しい付け方について支援する。	
8 振り返りをする。	良い例のチェック項目を基に、1回目と2回目のボタン付を比較し、達成度を記述により自己評価させる。	
9 本時まとめと次時の学習内容を確認する。	本時の学習内容をまとめ、次時は、生活に役立つ小物を製作することを知らせるとともに、家庭生活に何か必要かを家族の生活をウォッチングして見つけてくることを伝える。	

